

JCDかわら版

一般社団法人 日本コンクリート診断士会

今、改めて考える(一社)日本コンクリート診断士の役割

(一社)日本コンクリート診断士会 副会長 原田 隆敏

2025年度(第16回)定時社員総会が2025年5月23日に名古屋市の愛知県産業労働センターで開催されました。

早いもので、日本コンクリート診断士会も2010年7月23日に設立され15周年を迎えます。各地区の診断士会に目を向けますと福井県診断士会は全国で最も早く設立(2004年3月)し、昨年20周年を迎えており、今年度には東京、島根県も20周年となり他の地区診断士会においても数年後には迎えることでしょう。

ところで、コンクリート診断士受験者数の変遷をみてみますと2010年度の5998人をピークとして年々減少しており、昨年度は3217人となっております。この資格は他にも同様な民間資格があるものの、JCIとしても新たな有資格者の取得・増加には傾注しており、2回/年の理事会の情報交換会において、前川会長自ら積極的に関係省庁にコンクリート診断士資格の重要性を働きかけておられます。

日本コンクリート診断士会および地区診断士会ともに「20歳」に醸成し、日本コンクリート診断士会が地区診断士会のプラットホームとなり更なる活性化する時期と考えます。現に、「かわら版」の発行(4回/年)、JCI機関紙にJCD年次大会の掲載、業務体験発表報文の機関紙への掲載など、日本コンクリート診断士会を通して活動報告を行なっております。

さて、先月21日よりトカラ列島近辺で地震が多発し、7月3日には鹿児島県十島村悪石島付近で震度6弱の地震が続いております。30年以内に「南海トラフ地震」の発生確率が80%程度と発表されましたが、インフラ構造物が被災すると、道路啓かいの為の被災構造物の安全性を判定する高度の専門知識を備えたマンパワーが足りない。資格を活かす上での一例ですが、高知県コンクリート診断士会ではその時の備えとして「震災緊急点検士(仮称)」なる研修会を開催し診断士のスキルアップを目指し準備しています。プラットホームを通じて、地域それぞれ特色ある情報を共有し合い『一燈照隅』一隅を照らす活動が、地域社会貢献に繋がるとともに日本コンクリート診断士の役割であると考えます。

活動近況

2025.7.16~7.18

JCI年次大会参加
(7.17第5回構造物
診断セミナー 開催)

2025.10.9

第12回JCD年次
大会(島根大会)

2025.11.6

JCD理事会開催
(JCI会議室)

詳しくはHPをご覧ください。

HPが新しくなりました

<https://www.jcd-net.or.jp/>

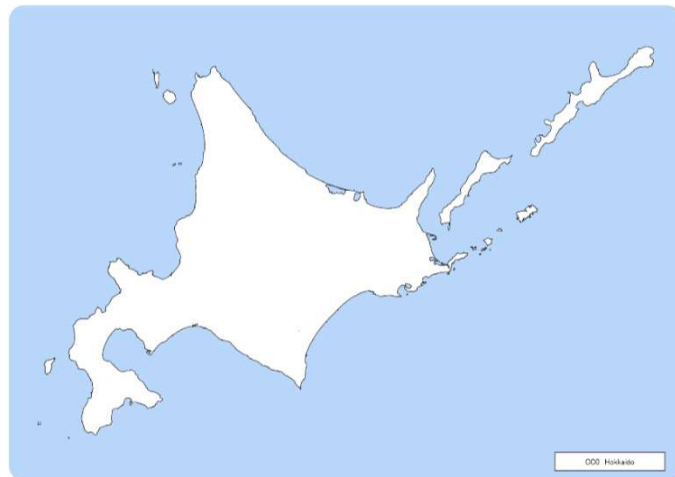


地区診断士会の紹介

北海道コンクリート診断士会

◆ 組織概略

北海道コンクリート診断士会は2009年1月に設立された団体です。対象エリアは北海道全域ですが、その面積は東北6県に新潟県の合計面積と同じといわれており、非常に広大なエリアに及びます。会員数は正会員 90名、賛助会員 5名、法人賛助会員 24社で活動しています。正会員の職種別では、建設会社や設計コンサルタント会社に所属する会員が全体の約7割を占めています。



◆ 運営体制

2024年度の通常総会において会長および事務局長が交代し、新体制のもと活動しています。

会長：杉山 隆文（北海道大学教授）

幹事：片山 貴大、高桑 史郎、高倉 英文、川崎 高幹、菅 睦三、森谷 猛、木村 博史

監査役：糸賀 大介 **事務局長：**南 真樹

◆ 活動概要

毎年5月に通常総会を開催し、6～7月にコンサルタント診断士試験受験対策講座「コンクリート診断士普及講習会」を2回実施し、8～10月頃に講演会を2回開催するという流れを基本として活動しています。

◆ 課題

定年退職に伴う退会者が近年増加傾向にあり、会員数が減ってきています。また、人口規模の多い5市（札幌、旭川、函館、苫小牧、帯広）に在住している会員が約8割を占める一方、遠隔地に在住している会員も2割以上いることから、活動場所に偏りが出ないような運営方法が求められています。この状況を踏まえ、Webを積極的に活用したり他団体との意思疎通を図った会員獲得活動などを今後進めて

地区診断士会の紹介

活動事例の紹介

① コンクリート診断士普及講習会

実施日時	1日目： 5月29日 13:30～15:50（170分） 2日目： 6月5日 13:30～15:50（170分）
実施形態	オンライン
実施内容	1日目： 択一式問題の演習・解説 2日目： 記述式問題の演習・解説
講師	日本データーサービス(株) 設計診断部 部長 木村 博史 氏
参加者	1日目： 28名 2日目： 27名
備考	参加者には事前に演習問題を配布して講習に臨んでもらう方式を採用。特に「記述式問題の演習」では参加者から事前に解答も提出してもらい、正答率が低い設問に焦点を当てて解説した。170分という長さであったが、時間が足りず終盤は消化不要気味になったとの声もあった。

講習会の様子



地区診断士会の紹介

活動事例の紹介

② 第1回講演会

実施日時	8月29日 15:00～16:30（90分）
実施形態	会場
実施内容	「コンクリート構造物の非破壊検査に関する最先端研究の取組み」
講師	北海道大学大学院工学研究院 土木工学部門先端社会システム分野 准教授 橋本 勝文 氏
参加者	41名
備考	海外でも活動している研究者を招いて非破壊検査に関する学術的先端研究事例を数多く紹介。

講演会の様子



地区診断士会の紹介

活動事例の紹介

③ 第1回講演会

実施日時	10月29日 15:00～16:30（90分）
実施形態	会場およびオンライン
実施内容	「“コンクリート構造物の補修対策施工マニュアル2022年版”の概要と改訂内容」
講師	国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所 寒地保全技術研究グループ 耐寒材料チーム 総括主任研究員 内藤 勲氏
参加者	会場：34名 オンライン：70名
備考	会場とオンラインによる実施形式を初めて試行。一部機材トラブルもあったが、数多くの参加者を募ることに成功。テーマは会員からのリクエストに応える形で実施。



JCDからのニュース

JCD2025年次大会 in 島根のご案内 (業務体験発表)

(一社)日本コンクリート診断士会では、会員の診断技術の向上に繋げると同時に地区相互の交流を深めることを目的に、毎年各地を巡り業務体験発表会と保有技術発表会を実施しております。

本年度も下記の要領にて開催致しますので、皆様のご参加をお待ちしております。

なお、本年度は島根県コンクリート診断士会の設立20周年記念行事の予定もあり、保有技術発表会は省略させていただきますの、ご了承願います。

1. 業務体験発表会 ※発表者募集中 (～8月1日迄) 10:00～14:00
2. 島根県コンクリート診断士会 20周年記念大会 15:00～17:00
3. 交流会 18:00～20:00 (参加費5,000円)

日 付 : 2025年10月9日 (木)

会 場 : 島根県松江市 「ホテル白鳥」

4. 現場見学会

日 付 : 2025年10月10日 (金) 出雲大社付近



2024青森大会見学会の様子

参加申込み等、詳細につきましては(一社)日本コンクリート診断士会HP等 事務局からの案内をご確認ください。よろしくお願いいたします。

法人会員保有技術の紹介

乾くまで待たずに貼付可能!!

せこたん™ 湿潤コンクリート用粘着テープ

雨上がりや結露で湿ったコンクリートに対しても粘着を発現
 「乾燥するまでの待ち時間」「強制乾燥に要する時間」が省ける

特長・仕様

- 雨天翌日の湿ったコンクリートに対しても、粘着力を発現するため、強制乾燥、テーププライマー塗布が不要となり、施工短縮効果が期待できます。
- 基材がポリエチレンクロスなので、手切れ性に優れます。
- 撤去時に糊残りがしにくく、被着体の美観を維持できます。

製品名	せこたん™ 湿潤コンクリート用粘着テープ		
品番	WCT		
サイズ(幅×長さ)	50mm × 10m / 個		
色	橙		
厚み	0.18mm		
入数	(個装)	1個	
	(中箱)	3個	
	(外装)	30個	

緊急用として持ち歩きやすい
手のひらサイズ



製品動画こちら

施工短縮に
貢献!



ニチバン独自の湿潤面粘着技術



吸水性粘着剤が水を「追い出す」のではなく「吸収」し接着

一般的な粘着テープ



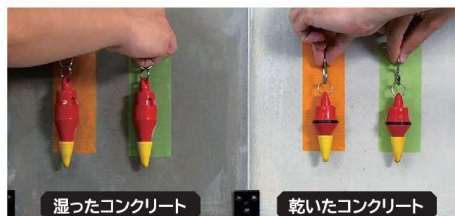
疎水性の表面に限り圧着で界面の水滴を追い出すことで貼付け可能



軽量のシートの固定



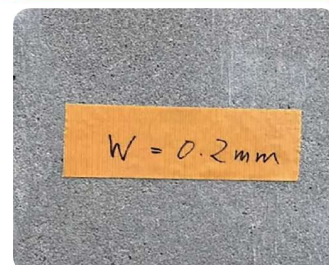
比較実験



湿ったコンクリートと乾いたコンクリートに本製品と一般的な養生テープを貼付け、おもりで負荷をかけた実験を実施。
 本製品は湿ったコンクリートにも乾いたコンクリートと同様の貼付け強度を発揮した。



調査時のマーキング



ニチバン株式会社
工業品営業統括部

【東京】 ☎(03)5229-7523
 【仙台】 ☎(022)390-0220
 【名古屋】 ☎(052)229-1768

【大阪】 ☎(06)4803-2331
 【広島】 ☎(082)205-5392
 【福岡】 ☎(092)521-1176

■お客様相談室
0120-377-218

ニチバンホームページ <https://www.nichiban.co.jp/>